

孤独・孤立による支援課題を抱える人の支援に関するアンケート調査の 記入にあたって

1 目的

孤独・孤立による支援課題を抱える人の支援において、福祉職・医療職等の支援者が、基本的な対応について共通理解を持つことにより、本人への支援の充実を図るために行います。

本調査は「孤独・孤立による支援課題を抱える人の支援ハンドブック」を作成することを見据え、実施するものです。

2 「孤独・孤立による支援課題を抱える人の支援ハンドブック」とは

以下の2点により本人が適切に医療や福祉等のサービスを利用できることで、本人の生活のQOLの向上及び権利が擁護されることを目的としています。

- ① 孤独・孤立による支援課題に直面した際、支援者が共通認識を持ち支援すること
- ② ニーズが顕在化する前から地域等における予防的視点での関わりができること

3 作成にあたってのスケジュール

令和4年11月：アンケート調査

令和4年12月：アンケート調査に基づきヒアリングの実施

～令和5年7月：ハンドブック～支援編～作成

～令和5年12月：ハンドブック～予防編～作成

※ 完成後は報告会や研修会の開催を検討しています

4 アンケート調査のご記入にあたっての留意点

アンケートは2種類あります

- ① A票：概要等について
- ② B票：個別ケースについて

→今まで支援された方、現在支援している方の中で本アンケートの趣旨に該当すると思われる代表的な事例をご記入ください。（事例数は問いません）

（孤独・孤立による支援課題を抱える対象者の例）

- ・ 親族が全くいない方、親族はいるが遠方のため協力が得られにくい方
- ・ 独居で認知症のため、金銭管理ができない方
- ・ 子どもがおられない夫婦。老々介護で夫婦ともに認知症の方
- ・ 精神疾患で親族がいるかもしれないが、縁を切っている方
- ・ 一人で外出し戻れなくなり、親族関係が不明で支援者に警察から連絡が来る方
- ・ 本人は発達障害の診断があり、外にでず家で引きこもっている方
- ・ 親からのネグレクトにより、措置入所をした子ども（家はごみ屋敷） など

5 調査結果の活用について

本調査結果は統計的に処理の上で使用し、調査以外の目的に使用することはありません。